

国際共同研究交通費補助 研究成果報告書

(適宜行追加可)

所属・職・氏名	社会学部 教授 中野康人
共同研究者 所属・職・氏名	NIOD Instituut voor oorlogs-, holocaust- en genocide studies Researcher Ralf Futselaar/ Researcher Trainee Milan van Lange
研究課題	歴史的・政治的テキストデータからの市民感情抽出に関する計量社会学研究
共同研究 実施期間	派遣期間：_____年____月____日～_____年____月____日 招聘期間：2018年4月28日～2018年5月12日
共同研究 実施場所	関西学院大学・大阪梅田キャンパス、関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパス
1. 研究の成果（本共同研究によって得られた新たな知見、成果等を簡潔に記述してください。該当しない場合は「該当なし」と記載してください。）	
(1) 学術的価値（本研究により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果）	
<p>今回の共同研究期間においては、主に感情の移動平均の算出、及び測定単位における感情値の測定尺度について検討・作業を行った。</p> <p>これまで、テキストデータから抽出される感情値は、文書（一つの議事録）ごとに集計し、さらにそれらに時系列的要素を加えて分析していた。今回の作業では、情報科学的分析手法を援用し、文書を一つの情報量の塊（チャンク）に分割し、チャンクごとに感情値を集計し、文書内でのチャンク間の移動平均、文書間の移動平均をとって、感情の変遷を分析することとした。結果として、よりスムーズな時系列分析が可能となった。</p>	
(2) 相手国との交流（海外の研究者と学術交流することによって得られた効果）	
<p>当該研究課題は、多言語のテキストに対して、共通の感情極性評価辞書を適用する分析を中心に据えている。このため、国際的な共同作業は不可欠のものである。辞書自体は、情報科学・言語学の分野で整備されたものを現在のところは使用している。しかし、一連の国際的学術交流を通じて、この辞書が抱える多言語ゆえの問題点が浮き彫りになってきた。</p>	
(3) 社会貢献（社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献）	
<p>当該研究課題は、単に参加研究者の問題関心を解決するだけに止まらず、広く社会に還元される可能性をもっている。なぜならば、ここで使用され、そして改善・開発されているツールは、今後の多言語テキスト分析のツールとして社会一般で利用できるものだからである。</p>	

(4) 若手研究者養成への貢献 (若手研究者養成への取り組み、成果)

今回の共同期間中、関西学院大学社会学研究科の大学院生に対し、研究概要のレクチャーとテキストマイニングに関するワークショップを実施した (2018/6/9 wed 社会学研究演習A、社会学実習A: 中野担当の時間)。参加大学院生の研究テーマに沿って、テキスト分析の適用可能性を議論した。

(5) 将来発展可能性 (本研究を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

(3)で記述した通り、本研究では、多言語テキストの分析におけるツールを整備している。この研究グループの活動に限らず、広く、テキスト分析一般に利用される可能性がある。

(6) その他 (上記 (1) ~ (5) 以外に得られた成果があれば記述してください。)

例: 大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得等

該当なし

2. 研究発表 (本共同研究の一環として発表 (予定含む) したものについて記述してください。なお、印刷物がある場合は1部添付してください。)

例: 共著論文、口頭発表、出版、ポスター発表

・ "Text mining in practice: A discussion on user-applied text mining techniques in historical research," panel discussion (Jesse de Does, Yasuto Nakano, Melvin Wevers, Pim Huijnen and Milan van Lange), Digital Humanities Benelux 2017 (Utrecht, Netherlands), 2017.07.04.

・ 関西学院大学先端社会研究所とNIODの共催で、2019年に合同セミナーを開催予定。